

(エ)北海道支庁別ばれいしょ生産量の推移

区分		作 付 面 積 (ha)							10a当たり収量(Kg)							収 穫 量 (t)						
地域	年次	29	30	令和元	2	3	4	5	29	30	令和元	2	3	4	5	29	30	令和元	2	3	4	5
札幌	石狩	645	666	722	694	710	730	737	3,670	3,280	3,670	3,600	3,380	3,580	3,580	23,700	21,900	26,500	25,000	24,000	26,100	26,400
	空知	698	677	659	629	600	615	617	3,250	3,110	3,490	3,460	3,090	3,980	3,750	22,700	21,100	23,000	21,800	18,500	24,500	23,100
	上川	2,710	2,620	2,590	2,400	2,330	2,380	2,350	3,540	2,850	3,430	3,490	2,720	3,640	3,490	95,900	74,700	88,800	83,700	63,300	86,600	82,000
	留萌	26	24	20	21	18	21	18	1,750	1,590	1,940	1,990	1,690	1,870	1,920	459	377	395	413	304	386	339
	小計	4,100	4,000	4,000	3,700	3,700	3,700	3,700	3,480	2,950	3,470	3,540	2,870	2,870	3,720	142,800	118,100	138,700	130,900	106,100	137,600	131,800
函館	渡島	814	745	690	650	593	547	497	2,990	2,660	2,940	2,950	2,790	2,700	2,870	24,400	19,800	20,300	19,200	16,500	14,700	14,200
	檜山	1,210	1,130	1,070	1,010	1,040	1,080	1,030	3,240	2,540	3,110	2,990	2,940	2,940	3,260	39,300	28,500	33,300	30,100	30,600	31,800	33,600
	後志	4,220	4,260	3,850	3,670	3,720	3,830	3,770	2,980	2,700	3,340	3,420	2,980	3,460	3,480	125,600	114,800	128,800	125,700	110,800	132,500	131,300
	胆振	547	556	505	472	483	506	546	2,920	2,680	3,510	3,340	3,340	3,350	3,580	16,000	14,900	17,700	15,800	16,100	17,000	19,600
	小計	6,800	6,700	6,100	5,800	5,800	6,000	5,800	3,020	2,660	3,280	3,290	3,000	2,900	3,380	205,300	178,000	200,100	190,800	174,000	196,000	198,700
帯広	日高	35	36	22	29	37	57	80	2,560	2,110	2,090	3,000	3,910	3,020	4,080	892	751	461	860	1,440	1,730	3,270
	十勝	22,800	22,600	22,100	21,800	21,500	22,200	22,300	3,770	3,430	3,700	3,440	3,630	3,470	3,990	860,400	775,900	818,500	750,800	780,900	771,600	889,700
	釧路	410	406	411	400	405	416	399	3,480	3,390	4,070	3,570	3,590	3,340	3,610	14,300	13,800	16,700	14,300	14,500	13,900	14,400
	小計	23,200	23,000	22,500	22,200	21,900	22,700	22,800	3,770	3,440	3,710	3,450	3,640	3,510	3,450	875,600	790,500	835,700	766,000	796,800	787,200	907,400
北見	宗谷	6	6	5	x	x	4	11	1,480	1,210	1,400	1,830	1,630	1,590	1,640	87	69	67	x	x	62	184
	網走	16,700	16,600	16,600	16,000	15,300	15,700	15,800	3,860	3,880	4,240	3,960	3,890	4,370	4,210	644,000	641,700	701,300	631,400	594,300	684,900	664,500
	根室	458	465	414	370	377	389	383	3,240	3,080	3,510	3,690	3,840	3,280	3,630	14,800	14,300	14,500	13,700	14,500	12,700	13,900
	小計	17,200	17,100	17,000	16,400	15,700	16,100	16,200	3,830	3,840	4,210	3,930	3,880	3,780	4,310	658,900	656,100	715,900	645,100	608,800	697,700	678,600
計		51,300	50,800	49,600	48,100	47,100	48,500	48,500	3,670	3,430	3,810	3,600	3,580	3,750	3,750	1,883,000	1,742,000	1,890,000	1,733,000	1,686,000	1,819,000	1,916,000

資料：農林水産省北海道農政事務所 食と農林水産データベース＞農業＞ばれいしょ＞ばれいしょの作付面積、収穫量
「野菜の作付面積、収穫量及び出荷量」

「x」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの

カ ばれいしょの作柄概要

年産	作 柄 概 要
平成 1 8	<p>○<u>作付面積</u>は8万6,600haで、前年並み。</p> <p>○<u>10a 当たり収量</u>は3,040kgで、前年産を4％下回る。</p> <p>○<u>収穫量</u>は263万5,000 t で、前年産に比べ11万7,000 t （前年産対比4％）減少。</p> <p>○季節区分別の概況</p> <p><u>春植えばれいしょ</u>の作付面積は8万3,600haで、前年産並み。10a 当たり収量は3,100kgで、前年産を4％下回った。これは、北海道で7月下旬から8月上旬の少雨と、8月以降の高温により生育が停滞したためである。この結果、収穫量は259万 t で、前年産に比べて12万2,000 t 減少。</p> <p><u>秋植えばれいしょ</u>の作付面積は2,930haで、前年産に比べて40ha（同1％）増加。10a 当たり収量は1,560kgで、前年産を11％上回った。これは、長崎県等で台風第13号の強風により茎葉の損傷があったものの、その後天候に恵まれ生育が順調に推移したためである。この結果、収穫量は4万5,700 t で、前年産に比べて5,100 t （同13％）増加。</p>
1 9	<p>○<u>作付面積</u>は8万7,400haで、前年産に比べて800ha（1％）増加</p> <p>○<u>10a 当たり収量</u>は3,290kgで、前年産に比べて8％上回った。</p> <p>○<u>収穫量</u>は287万3,000 t で、前年産に比べて23万8,000 t （9％）増加。</p> <p>○季節区分別の概況</p> <p><u>春植えばれいしょ</u>の作付面積は8万4,500haで、前年産に比べて900ha（1％）増加。10a 当たり収量は3,350kgで、前年産を8％上回った。これは生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。この結果、収穫量は282万8,000 t で、前年産で比べて23万6,000 t （11％）増加。</p> <p><u>秋植えばれいしょ</u>の作付面積は2,890haで、前年産に比べて40ha（1％）減少。10a 当たり収量は1,540kgで、前年産を1％下回った。この結果、収穫量は4万4,400 t で、前年産に比べて1,300 t （3％）減少。</p>
2 0	<p>○<u>作付面積</u>は8万4,900haで、前年産に比べて2,500ha（3％）減少。</p> <p>○<u>10a 当たり収量</u>は3,230kgで、前年産に比べて2％下回った。</p> <p>○<u>収穫量</u>は274万2,000 t で、前年産に比べて13万0,000 t （5％）減少。</p> <p>○季節区分別の概況</p> <p><u>春植えばれいしょ</u>の作付面積は8万2,000haで、前年産に比べて2,500ha（3％）減少。10a 当たり収量は3,230kgで、前年産を2％下回った。これは、7月の日照不足、8月～9月の降雨不足などの影響により、いもの肥大が抑制され小玉傾向となったためである。この結果、収穫量は269万7,000 t で、前年産で比べて13万1,000 t （5％）減少。</p> <p><u>秋植えばれいしょ</u>の作付面積は2,880haで、前年産並み。10a 当たり収量は1,600kgで、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたことから、前年産に比べて4％上回った。この結果、収穫量は4万6,100 t で、前年産に比べて1,700 t （4％）増加。</p>
2 1	<p>○<u>作付面積</u>は8万3,100haで、前年産に比べて1,800ha（2％）減少。</p> <p>○<u>10a 当たり収量</u>は2,960kgで、前年産に比べて8％下回った。</p> <p>○<u>収穫量</u>は245万9,000 t で、前年産に比べて28万4,000 t （10％）減少。</p> <p>○季節区分別の概況</p>

	<p><u>春植えばれいしょ</u>の作付面積は8万300haで、前年産に比べて1,700ha（2％）減少。10a 当たり収量は3,000kgで、前年産を9％下回った。これは、7月中旬以降の低温、日照不足の影響により、いもの肥大が抑制され小玉傾向となったためである。この結果、収穫量は241万2,000tで、前年産で比べて28万5,000t（11％）減少。</p> <p><u>秋植えばれいしょ</u>の作付面積は2,820haで、生産者の高齢化に伴う作付中止等があったことから、前年産に比べて50ha（2％）減少。10a 当たり収量は1,660kgで、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたことから、前年産に比べて3％上回った。この結果、収穫量は4万6,700tで、前年産に比べて600t（2％）減少。</p>
2 2	<p>○<u>作付面積</u>は8万2,500haで、前年産に比べて600ha（1％）減少。</p> <p>○<u>10a 当たり収量</u>は2,780kgで、前年産に比べて6％下回った。</p> <p>○<u>収穫量</u>は229万tで、前年産に比べて16万9,000t（7％）減少。</p> <p>○季節別の概況</p> <p><u>春植えばれいしょ</u>の作付面積は7万9,600haで、前年産に比べて700ha（1％）減少。10a 当たり収量は2,810kgで、前年産を6％下回った。これは、春先の低温や、7月中旬以降の高温・多雨の影響により着いも数が少なくなったことに加え、いもの肥大が抑制され小玉傾向となったためである。この結果、収穫量は223万7,000tで、前年産で比べて17万5,000t（7％）減少。</p> <p><u>秋植えばれいしょ</u>の作付面積は2,930haで、主産地である長崎県及び鹿児島県において他野菜からの転換等があったことから、前年産に比べて110ha（4％）増加。10a 当たり収量は1,800kgで、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたことから、前年産に比べて8％上回った。この結果、収穫量は5万2,800tで、前年産に比べて6,100t（13％）増加。</p>
2 3	<p>○<u>作付面積</u>は8万1,000haで、前年産に比べて1,500ha（2％）減少。</p> <p>○<u>10a 当たり収量</u>は2,950kgで、前年産に比べて6％上回った。</p> <p>○<u>収穫量</u>は238万7,000tで、前年産に比べて9万7,000t（4％）増加。</p> <p>○地域別の概況</p> <p><u>北海道</u>の作付面積は5万3,100haで、前年産に比べて1,000ha（2％）減少。10a 当たり収量は3,470kgで作柄の悪かった前年産を3％上回ったものの、春先の降雨や、収穫時期の台風等の影響により収穫量は54万4,300tで、平年収量比97％となった。</p> <p><u>都府県産</u>の作付面積は2万7,900haで、前年産に比べて500ha（2％）減少。10a 当たり収量は1,950kgで生育期間をとおして比較的天候に恵まれたことから、作柄の悪かった前年産に比べて3％上回り収穫量は54万4,300tで、平年収量比97％となった。</p>
2 4	<p>○<u>作付面積</u>は8万1,200haで、前年産並み。</p> <p>○<u>10a 当たり収量</u>は3,080kgで、前年産に比べて4％上回った。</p> <p>○<u>収穫量</u>は250万tで、前年産に比べて11万3,000t（5％）増加。</p> <p>○地域別の概況</p> <p><u>北海道</u>の作付面積は5万3,400haで、前年産並み。10a 当たり収量は3,630kgで前年産に比べて5％上回った。これは6月から7月にかけて比較的天候に恵まれ、着いも数がやや多かったこと等によるもので、収穫量は193万8,000tで、前年産に比べて9万5,000t（5％）増加した。</p> <p><u>都府県産</u>の作付面積は2万7,900haで、前年産並み。10a 当たり収量は2,010kgで生育期間をとおして比</p>

	<p>較的天候に恵まれたことから、前年産に比べて３％上回り、収穫量は56万1,800 t で、平年収量比101％となった。</p>
2 5	<p>○<u>作付面積</u>は 7 万9,700haで、前年産に比べて1,500ha（２％）減少。</p> <p>○<u>10 a 当たり収量</u>は3,020kgで、前年産に比べて２％下回った。</p> <p>○<u>収穫量</u>は240万8,000 t で、前年産に比べて 9 万2,000 t （４％）減少。</p> <p>○地域別の概況</p> <p><u>北海道</u>の作付面積は 5 万2,400haで、前年と比べて1,000ha減少した。一部地域で植付作業の遅れや 7 月の少雨の影響が見られたことなどから、規格内収量はやや低く、10 a 当たり収量は3,580kgで前年産に比べて 3 ％下回り、収穫量は187万6,000 t で、前年産に比べて 6 万2,000 t （３％）減少した。</p> <p><u>都府県産</u>の作付面積は2万7,200haで、前年産に比べて700ha（３％）減少。</p> <p>10 a 当たり収量は1,960kgで、前年産に比べて 2 ％下回った。収穫量は53万1,800 t で、前年産に比べて 3 万 t （５％）減少。</p>
2 6	<p>○<u>作付面積</u>は 7 万8,300haで、前年産に比べて1,400ha（２％）減少。</p> <p>○<u>10 a 当たり収量</u>は3,140kgで、前年産に比べて 4 ％上回った。</p> <p>○<u>収穫量</u>は245万6,000 t で、前年産に比べて 4 万8,000 t （２％）増加。</p> <p>○地域別の概況</p> <p><u>北海道</u>の作付面積は 5 万1,500haで、前年と比べて900ha減少した。生育や収穫作業は平年より早く、降雨の影響により一部の地域で生育のばらつきが見られたものの、概ね順調に進んだ。10 a 当たり収量は3,720kgで前年産に比べて 4 ％上回り、収穫量は192万 t で、前年産に比べて 4 万 t （２％）増加した。</p> <p><u>都府県産</u>の作付面積は2万6,800haで、前年産に比べて400ha（１％）減少。10 a 当たり収量は2,020kgで、前年産に比べて 3 ％上回った。収穫量は54万 t で、前年産に比べて1万5,000 t （２％）増加。</p>
2 7	<p>○<u>作付面積</u>は 7 万7,400haで、前年産に比べて900ha（１％）減少。</p> <p>○<u>10 a 当たり収量</u>は3,110kgで、前年産に比べて 1 ％下回った。</p> <p>○<u>収穫量</u>は240万6,000 t で、前年産に比べて 5 万 t （２％）増加。</p> <p>○地域別の概況</p> <p><u>北海道</u>の作付面積は 5 万1,000haで、前年と比べて500ha減少した。干ばつの影響があった一部地域を除き、全体的には生育は順調に進んだ。10 a 当たり収量は3,720kgで前年産並となり、収穫量は190万7,000 t で前年産に比べて9,000 t （0.5％）減少した。</p> <p><u>都府県産</u>の作付面積は2万6,400haで前年産に比べて400ha（１％）減少。10 a 当たり収量は1,890kgで、前年産に比べて 6 ％下回った。収穫量は50万 t で前年産に比べて 4 万 t （８％）減少。</p>
2 8	<p>【春植え】</p> <p>○作付面積は 7 万4,600haで、前年産並み。</p> <p>○10 a 当たり収量は2,890kgで、前年産に比べて 8 ％下回った。</p> <p>これは、作付けの多い<u>北海道において</u>、6 月の日照不足による影響によりいもの肥大が進まなかったことに加えて、<u>8 月の台風に伴う大雨等により浸水・冠水等の被害が発生</u>。</p>

	<p>○収穫量は215万8,000 t で、前年産に比べて20万7,000 t （9 %）減少。</p> <p>【秋植え】</p> <p>○作付面積は2,670haで、前年産に比べ2 %減少。</p> <p>○10 a 当たり収量は1,530kgで、前年産並み。</p> <p>○収穫量は4 万800 t で、前年産に比べて1,000 t （2 %）減少。</p>
2 9	<p>【春植え】</p> <p>○作付面積は7 万4,400haで、前年産並み。</p> <p>○10 a 当たり収量は3,160kgで、前年産に比べて9 %上回った。</p> <p>これは、作付けの多い北海道において、概ね天候に恵まれ、台風による被害等のあった前年産を上回ったため。</p> <p>○収穫量は235万 t で、前年産に比べ19万2,000 t （9 %）増加。</p> <p>【秋植え】</p> <p>○作付面積は2,640haで、前年産に比べ1 %減少。</p> <p>○10 a 当たり収量は1,520kgで、前年産に比べ1 %下回った。</p> <p>○収穫量は4 万100 t で、前年産に比べ700 t （2 %）減少。</p>
3 0	<p>【春植え】</p> <p>○作付面積は7 万4,000haで、前年産に比べ1 %減少。</p> <p>○10 a 当たり収量は2,990kgで、前年産に比べ5 %下回った。</p> <p>これは、作付けの多い北海道において、6 月以降の天候不順により、着いも数が少なく、小玉傾向となったため。</p> <p>○収穫量は221万5,000 t で、前年産に比べ14万 t （6 %）減少。</p> <p>【秋植え】</p> <p>○作付面積は2,510haで、前年産に比べ5 %減少。</p> <p>これは長崎県において他野菜への転換やほ場整備のため作付休止があったこと等による。</p> <p>○10 a 当たり収量は1,820kgで、前年産に比べ20 %上回った。</p> <p>これは、天候に恵まれ肥大が良好であったこと等による。</p> <p>○収穫量は4 万5,600 t で、前年産に比べ5,500 t （14 %）増加。</p>
令和 元	<p>【春植え】</p> <p>○作付面積は7 万2,000haで、前年産に比べ2,000ha（3 %）減少。</p> <p>これは、主に北海道において、小麦や小豆に転換されたこと等による。</p> <p>○10 a 当たり収量は3,270kgで、前年産に比べ280kg, 9 %上回った。</p> <p>これは、主に北海道において、生育期間全般において天候に恵まれ、いもの肥大が良好であったためである。</p> <p>○収穫量は235万7,000 t で、前年産に比べ14万2,000 t （6 %）増加。</p> <p>【秋植え】</p> <p>○作付面積は2,410haで、前年産に比べ100ha（4 %）減少。</p> <p>これは、長崎県において、他野菜への転換があったこと等による。</p> <p>○10 a 当たり収量は1,730kgで、前年産に比べ90kg（5 %）下回った。</p>

	<p>これは、鹿児島県において、植付け後の高温の影響で生育が抑制されたためである。</p> <p>○収穫量は4万1,800 tで、前年産に比べ3,800 t（8％）増加。</p>
2	<p>【春植え】</p> <p>○作付面積は6万9,600haで、前年産に比べ2,400ha（3％）減少。</p> <p>これは、主に北海道において、小豆やいんげんに転換されたこと等による。</p> <p>○10 a 当たり収量は3,110kgで、前年産に比べ160kg, 5％上回った。</p> <p>これは主に北海道において6月後半の低温、日照不足等の影響により、着いも数が少なくなったためである。</p> <p>○収穫量は216万5,000 tで、前年産に比べ16万26,000 t（8％）減少。</p> <p>【秋植え】</p> <p>○作付け面積は2,310haで、前年産にくらべ100ha（4％）減少。</p> <p>これは主に生産者の高齢化による作付中止や他野菜への転換があったためである。</p> <p>○10 a 当たり収量は1680kgで、前年産に比べ50kg, 3％下回った。</p> <p>○収穫量は38,900 tで、前年産に比べ2900 t（7％）減少。</p>
3	<p>【春植え】</p> <p>○作付面積は68,500haで、前年産に比べ1,100ha（2％）減少。</p> <p>○10 a 当たり収量は3,120kgで、前年並みとなった。</p> <p>主産地の北海道においては7月は降水量が少なく、収穫が早い生食用の肥大が抑制され影響を受けた。</p> <p>8月以降は降水量が確保されたため、収量は前年並みに回復した。</p> <p>○収穫量は213万9000 tで、前年産に比べ2万8000t（1％）減少。</p> <p>【秋植え】</p> <p>○作付面積は2,400haで、前年産に比べ90ha（4％）増加した。これは、鹿児島県において、かんしょからの転換があったためである。</p> <p>○10a当たり収量は1,510kgで、前年産に比べ170kg（10％）下回った。</p> <p>これは、長崎県において、9月下旬から10月下旬にかけて高温・少雨で推移したことから、肥大が抑制されたためである。</p> <p>○収穫量は3万6,300tで、前年産に比べ2,600t（6％）減少した。</p>
4	<p>【春植え】</p> <p>○作付面積は6万9,100haで、前年産に比べ600ha（1％）増加。</p> <p>○10a当たり収量は3,250kgで、前年産に比べ130kg（4％）上回った。</p> <p>○収穫量は224万5000 tで、前年産に比べ10万6000 t（5％）増加。</p> <p>主産地の北海道において、需要の高まりから作付面積が増加し、気候も平年並みに推移したことから、前年産に比べ生産量が増加した。</p> <p>【秋植え】</p> <p>○作付面積は2,260haで、前年産に比べ140ha（6％）減少した。これは、生産者の高齢化等の労力事情により作付中止や規模縮小があったためである。</p> <p>○10a当たり収量は1,690kgで、前年産に比べ180kg（12％）上回った。</p> <p>これは、前年産が不作であった長崎県において、生育が順調だったこと等による。</p>

	○収穫量は3万8,300tで、前年産に比べ2,000t（6％）増加した。
5	<p>【春植え】</p> <p>○作付面積は6万9000haで、前年産に比べ100ha（1％）減少。</p> <p>○10a当たり収量は3,370kgで、前年産に比べ140kg（4％）上回った。</p> <p>○収穫量は232万6千トンで、前年産に比べ8万1000 t（4％）増加。</p> <p>主産地の北海道において、植付後の好天により初期成育が確保され、それ以降も天候にも恵まれたため、着いも数が多くなり、前年を上回る収量となった。</p> <p>【秋植え】</p> <p>○作付面積は2,200haで、前年産に比べ60ha（3％）減少した。これは、生産者の高齢化や労力不足による規模縮小や他品目への転換があったことによる。</p> <p>○10 a 当たり収量は1,730kgで、前年産に比べ40kg（2％）上回った。</p> <p>これは、主産地において病害虫の影響が少なく、生育が順調に推移したためである。</p> <p>○収穫量は 3 万 8,100 t で、前年産に比べ200 t （1％）減少した。</p>
6	<p>【春植え】</p> <p>○作付面積は 6 万 8,700ha で、前年産に比べ300ha（1％）減少。</p> <p>○10 a 当たり収量は 3,290kg で、前年産を80kg（2％）下回った。</p> <p>○収穫量は 226 万 3,000 t、前年産に比べそれぞれ 6 万3,000 t （3％）減少。</p> <p>これは主産地の北海道において、7月の干ばつの影響等により早生品種の収量が減少したためである。</p>

資料：統計部「野菜生産出荷統計」

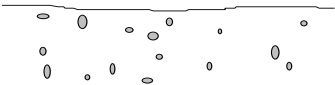

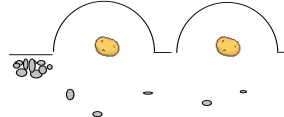
都道府県からの聞き取りによる地域作物課調べ

キ ばれいしょの機械化体系(ソイルコンディショニング栽培技術)

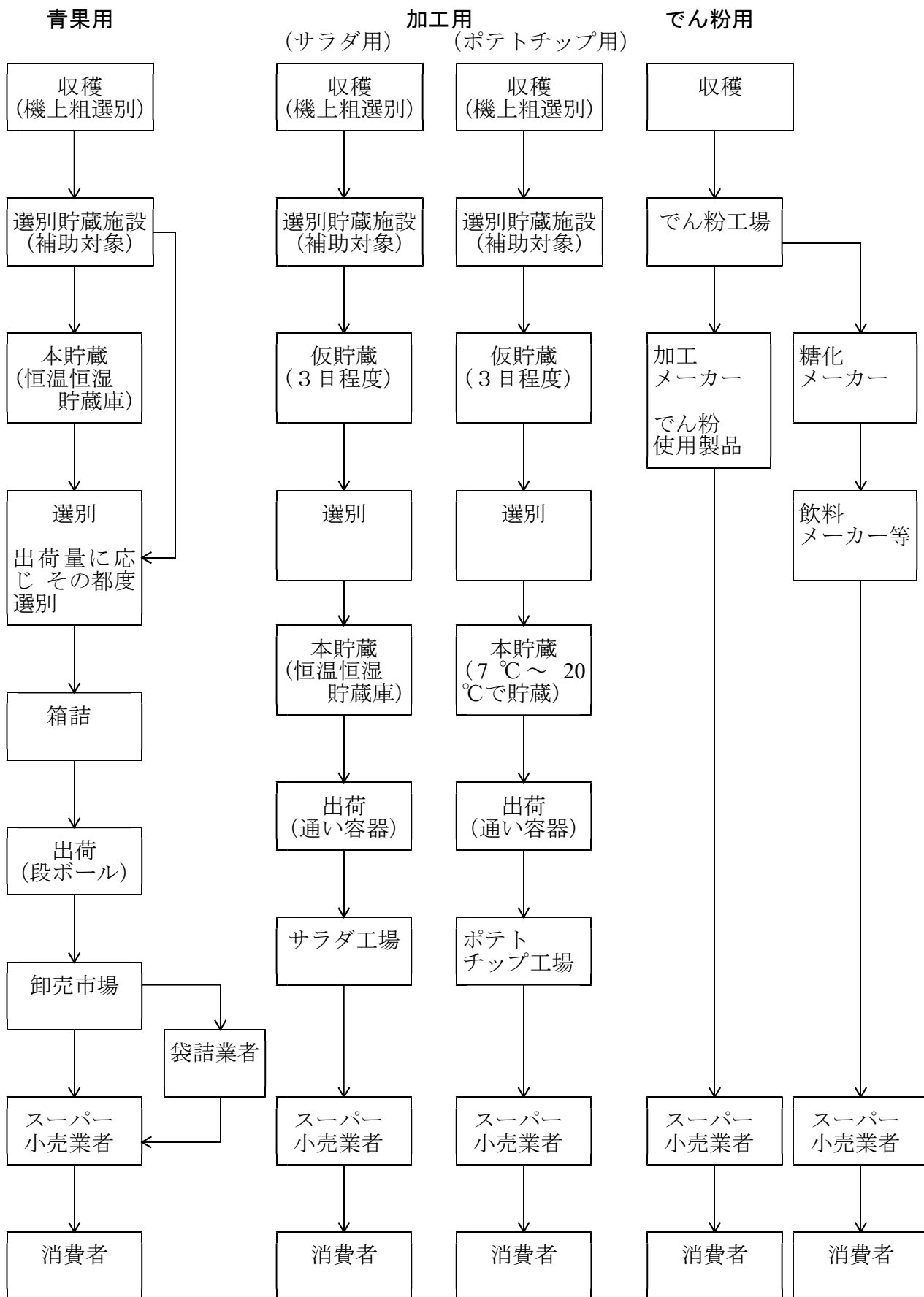
- ソイルコンディショニング栽培体系は、あらかじめ作土から石・れき・土塊を取り除き、うね立てした上で播種するため、品質の向上と収穫作業の大幅な省力化が期待できる作業体系。

主な効果 ・培土をしないためいもを傷めない ・いもの肥大・大きさが均一 ・いもの変形が少ない ・緑化いもが少ない

- 一方で、導入に当たってはセパレータ等高価格な作業機の販売価格の低減や日本の土壌、気象条件に合った利用体系の確立を図る必要がある。

		耕起・整地		播 種	(生育状況)	収 穫	選 別
		プラウ ハロー ロータリー		プランター		ハーベスタ (1 畦)	機上選別
現 行 体 系	作業 機械						
	作業 の 特徴 ・ ほ場 の 状況					ほ場内の石や腐敗いも等が収穫物と一緒に機上に上がるため、ハーベスタ 1 台に 3～4 人の選別作業員が必要。足場が不安定なため重労働。 	
ソ イ ル コ ン デ ィ シ ョ ニ ン グ	作業 機械	ベッドフォーマ 	セパレータ 	プランター(深植専用) 			オフセットハーベスタ ほ場内に収穫時の打撲の原因となる石等がない上、畦を踏むリスクが軽減されるため、機上における選別作業が非常に効率的。
	作業 の 特徴 ・ ほ場 の 状況	2 畦分の土を寄せ、大きな畦を形成。 	砕土と同時に石や土塊を分離。大きな石はほ場外に廃棄、小さな石は畦間に集積。 	播種と同時に培土も完成させる。播種深さは 15～20cm。 		ハーベスタ (2 畦・伴走車) 	粗選別施設で効率的に選別  ほ場内に収穫時の打撲の原因となる石等がないため、従来の 3～4 倍の速さで収穫可能。 作業員を集中できるため効率的。 選別作業の外部化も可能。

ク ばれいしょの流通体系



ケ 令和5年産ばれいしょ収穫量上位100市町村

	都道府県名	市町村名	作付面積	収穫量	出荷量	順位	都道府県名	市町村名	作付面積	収穫量	出荷量
			ha	t	t				ha	t	t
1	北海道	帯広市	3,520	135,000	121,200	51	静岡県	浜松市	254	6,990	6,250
2	北海道	芽室町	3,130	121,200	113,200	52	北海道	洞爺湖町	189	6,780	6,510
3	北海道	斜里町	2,580	110,700	106,100	53	北海道	千歳市	159	6,110	2,050
4	北海道	網走市	2,390	101,200	96,000	54	北海道	新得町	145	5,790	4,810
5	北海道	幕別町	2,580	95,600	90,000	55	北海道	富良野市	180	5,650	5,100
6	北海道	小清水町	2,160	92,200	90,800	56	北海道	剣淵町	162	5,150	4,360
7	北海道	更別村	2,040	88,000	84,400	57	北海道	名寄市	137	5,000	4,140
8	北海道	大空町	1,920	87,300	76,500	58	北海道	森町	165	4,950	4,480
9	北海道	士幌町	2,060	86,900	78,000	59	北海道	せたな町	152	4,710	3,820
10	北海道	音更町	2,160	82,600	76,100	60	青森県	横浜町	132	4,540	4,070
11	北海道	清里町	1,840	73,000	68,800	61	北海道	旭川市	115	4,530	4,220
12	北海道	北見市	1,710	72,400	61,100	62	北海道	士別市	161	3,630	3,180
13	北海道	美幌町	1,320	51,800	47,600	63	北海道	石狩市	116	3,520	2,940
14	北海道	中札内村	1,040	48,300	44,900	64	北海道	厚真町	92	3,420	2,920
15	北海道	倶知安町	1,150	41,000	33,600	65	鹿児島県	西之表市	130	3,420	3,220
16	北海道	豊頃町	895	39,200	36,700	66	北海道	中富良野町	105	3,360	2,810
17	長崎県	雲仙市	1,340	37,900	32,900	67	北海道	黒松内町	89	3,210	1,280
18	北海道	鹿追町	947	36,700	31,800	68	北海道	長沼町	92	2,970	1,690
19	北海道	訓子府町	800	31,800	26,000	69	熊本県	八代市	107	2,860	2,500
20	北海道	浦幌町	753	31,600	30,300	70	北海道	安平町	68	2,820	2,720
21	北海道	美瑛町	792	30,400	25,400	71	北海道	むかわ町	86	2,780	2,470
22	北海道	清水町	805	29,600	26,800	72	北海道	遠軽町	82	2,670	2,480
23	北海道	上士幌町	682	27,800	25,800	73	北海道	江別市	72	2,600	2,280
24	鹿児島県	長島町	1,030	25,000	24,100	74	北海道	蘭越町	66	2,560	2,150
25	北海道	本別町	643	24,800	23,900	75	青森県	東北町	80	2,520	2,220
26	長崎県	南島原市	867	24,000	21,500	76	鹿児島県	天城町	215	2,300	2,190
27	北海道	京極町	662	23,000	20,100	77	鹿児島県	南大隅町	95	2,040	1,970
28	北海道	津別町	516	21,200	18,400	78	青森県	三沢市	74	1,920	1,660
29	長崎県	諫早市	616	18,200	16,400	79	北海道	岩見沢市	59	1,840	1,160
30	北海道	真狩村	534	17,900	15,500	80	北海道	当別町	62	1,780	1,570
31	北海道	留寿都村	467	16,900	15,500	81	北海道	湧別町	53	1,770	1,670
32	北海道	置戸町	373	16,700	13,000	82	北海道	平取町	34	1,670	1,590
33	北海道	弟子屈町	394	14,300	13,200	83	広島県	東広島市	126	1,640	567
34	北海道	今金町	400	13,600	10,800	84	北海道	北広島市	49	1,520	1,170
35	北海道	上富良野町	385	13,500	11,000	85	北海道	日高町	42	1,500	1,420
36	北海道	中標津町	360	13,200	10,300	86	北海道	深川市	39	1,470	530
37	北海道	池田町	329	13,000	11,700	87	北海道	伊達市	44	1,460	1,230
38	北海道	大樹町	322	12,900	8,430	88	鹿児島県	錦江町	58	1,420	1,370
39	北海道	厚沢部町	395	12,600	5,140	89	北海道	豊浦町	35	1,290	1,170
40	北海道	恵庭市	245	9,680	7,810	90	北海道	芦別市	37	1,170	311
41	北海道	足寄町	228	9,100	9,100	91	北海道	江差町	36	1,150	1,040
42	北海道	喜茂別町	275	9,030	7,750	92	千葉県	芝山町	37	1,070	869
43	北海道	共和町	257	8,770	8,250	93	北海道	乙部町	32	1,060	963
44	北海道	南富良野町	228	8,250	4,760	94	北海道	上川町	29	904	844
45	鹿児島県	和泊町	578	7,850	6,340	95	北海道	美深町	27	886	816
46	北海道	栗山町	187	7,780	610	96	長崎県	平戸市	37	838	488
47	北海道	ニセコ町	232	7,770	6,470	97	北海道	壮瞥町	24	766	699
48	北海道	函館市	275	7,700	6,990	98	北海道	八雲町	28	756	681
49	北海道	由仁町	173	7,070	2,630	99	北海道	赤井川村	23	635	562
50	鹿児島県	知名町	541	7,010	6,660	100	鹿児島県	中種子町	27	586	554

資料：農林水産省統計部「農林水産関係市町村別データ(年産)」